

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800036		
法人名	社会福祉法人 城陽福祉会		
事業所名	グループホーム ひだまり浜道裏 (1F)		
所在地	京都府城陽市平川浜道裏29-5		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	平成29年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;jigyouvoCd=2692800036-008&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;jigyouvoCd=2692800036-008&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館・京都」1階
訪問調査日	平成29年3月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然と広い敷地に恵まれており、ホームのポーチやテラスでゆっくり過ごされたり、庭を散歩したり、野菜を育てたり、花を摘んで居室に飾られたりと季節を肌で感じてられます。利用者様にはそれぞれ担当としての職員がその方の日々の様子から体調や気持ちの変化を即座に汲み取り、より安心して生活して頂けるよう心配りをしています。近隣の中学校行事の見学の招待を受けたり、中学生と利用者様との交流を始め、地域の皆様との繋がれるよう心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

往時の田園風景が偲ばれる風景の中に、法人本部の大きな建物が有り、道を隔てグループホーム(以下ホーム)があります。ホームの敷地はヘンスに囲まれているものの内部の花壇や、畑、実のなる樹、黙々と畑の世話をされている様子などが見え開放的です。つくしがたくさん芽を出しており、つくご飯は早々に食卓に上がったと聞くことができました。当ホームの特色の1つ目は、3食を利用者とともにホームで調理し食べていることです。食卓には手作りのランチョンマットを敷き、畑の野菜を食卓に登場させ、話題をにぎわせています。2つ目は、菜園支援、裁縫(繕い物、寸法直しなど)、書道ほか多彩な技能を持つボランティアの来訪です。、3つ目は、現場職員の目標である「笑顔第一・利用者と関わり雰囲気良く・居やすい場所・来やすい場所づくり」が実現していることです。ボランティアさんからも家族からも称賛の声を聞くことができました。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれるもうひとつのわが家」を目指し利用者様の日々のケアに取り組んでいる。法人理念・行動指針を職員会議や委員会・所内研修で唱和し職員間で共有している。	玄関やパンフレットに理念が表示されている。法人職員全員に“より質の高いサービスを目指して”という題名の冊子が配布されている。ホームでは冊子をもとに、理念や行動規範を職員会議で唱和し、実践の振り返りにつなげている。加えて現場では、職員で話し合い「笑顔を第一に利用者に関わり雰囲気良く」「居やすい場所・来やすい場所づくり」を目指し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との生協の共同購入や、周辺道路の除草や石拾いを職員で行う事で、事業所の避難訓練にも協力を依頼している。また、近隣中学校の運動会見学、社会勉強の為の生徒の訪問等交流をおこなっている。地域にある商店からの食材の購入をしている。	地域の自治会に入り、地域との交流や催しの情報を収集している。近隣で食材を購入し、除草や石拾いなど、地域との馴染みの関係づくりに努力されている。一方、隣接する中学校とは体験学習や年間行事を通し交流がある。利用者も「中学生の訪問は気分が変わり、明るい気持ちになります」と楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の家族様より認知症のことで相談されることもあり、日頃から、認知症の勉強会等を行い応じられる努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者様のホームでの暮らしぶりを写真にまとめたものを見て頂きながら、会議参加者の疑問や質問など頂いている。そこで出た意見やアイデアを今後のサービス提供に活かしている。	参加メンバーは入居者、中学校長、高齢者クラブ代表、民生委員、市高齢課職員、在宅介護支援センター、グループホーム代表である。レジュメをもとに、ホームの近況、行事予定等が報告され、事故報告についての事業所の対応が報告されている。参加者から、地域の行事・中学校作品展の案内等がされている。ホームでの利用者の生活の様子は写真を使つての説明に好評を得ている。参加されている入居者からも、「子供たちとの交流で元気になれます」と述べられている。議事録はメンバーに配布し、家族には玄関にファイルにまとめ自由閲覧とされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	他の事業所の活動情報を教えて頂くなど、協力関係が築けている。何かわからないことがあれば、市に連絡し運営や基準・考え方を教えて頂いている。	市の担当者は毎回推進会議に参加され、気軽に相談等できる関係にある。地域の関係機関等との会議には法人から代表が参加されることになっており、ホームからは参加していない。市からはメール等で、情報が届けられてきている。	地域密着型の事業所の状況把握や情報交換の貴重な機会であり、勉強会、相互訪問等の活動を通し、サービスの質の向上に活かされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルが作成されており、職員研修も実施している。門扉は施錠されているが、職員が見守りを行っている際には、門扉の開放をするようにしている。利用者のお散歩等の希望のある時には、職員付添のもと、外出できるようにしている。	現在マニュアルの見直しがされている。研修はホーム内、法人内で受けている。ホーム内研修は講師は持ち回りである。身体拘束ゼロを目指し、職員・家族と検討し、センサーマットを使っている利用者もある。屋内は施錠されていないが、門扉は見守りがなければ施錠している。言葉の拘束のマニュアルは設けられており、職員同士で注意や話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を開いたりと虐待発生防止に努めている。職員の健康やメンタルケアなど、虐待防止につながるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者様もあり、資格取得の機会を使い、知識を深めたり、研修で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、事業所の力量や方針を出来るだけ詳しく説明し理解を得られるようにしている。また不安や、疑問点をお聞きし、説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関にご意見BOXを設置している。それ以外にも、直接伺うことがあれば、運営に反映させられるよう努力している。日頃から話しやすい関係づくりを行っている。	家族会は設けていないが、家族の訪問時は利用者の様子を伝え、しゃべりやすい雰囲気作りを心がけ「そういえば・・・」と家族からお願いや要望が出てくることがある。遠方の家族とは携帯でやり取りする家族もある。家族は職員が明るい、ホームは開放的で好意的な評価をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は随時聞いている。また、毎月行われるホーム会議や、年2回ある管理者との面談の際にも意見や提案をする機会を設け、反映出来るものは、反映させている。	職員の全体会議を月1回開催し、当時間帯はケア対応職員以外全員参加している。議題の中で、2ユニット間の情報交換、情報共有を図ろうといった提案や業務の見直しについての意見に対し、内容を検討し実行に向け話し合いがされている。更に利用者のケアについては適宜関係者間の会議を開き、現場に適した会議が開催されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	準社員から正社員へと職員の個々の努力や実績を評価し、昇格する制度が確立されており、職員のモチベーションアップに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回管理者との面談が行われ、自己の振り返りを行い、事業所内での役割や自己研鑽の方向性を話し合う機会がある。また、法人内外の研修を受ける機会の確保もされている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている	法人の中の他事業所との交流は、月一回の会議がある。また、委員会にてマニュアルの整備や技術の向上を図っている。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に頂いた情報を元に、職員間で話し合い、その方の安心、安全に暮らせるための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設申し込み時に、本人様の現状と家族の困難・不安を出来るだけ詳しく聞き取るようにし、安心して頂けるよう相談相手になれるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態と家族様の要望や思いを聞いた上で、考えられるサービスの案内や提案をするようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことや出来ることを見つけ、他の方々と一緒に行事により、交流を深め、暮らしを共にする者同士の関係を築けるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が一番信頼をおかれている家族への思いを大切にし、家族様にしか出来ない支援をして頂けるよう、仲介役になるようにしており、面会だけでなく、外泊や外出を自由にして頂けるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がボランティアに来てくださったり、なじみのある医療機関や美容院も継続して通われている方もおり、馴染みの場所や人との関わりが途切れないよう支援に努めている。	帰宅願望の強い利用者の近所の方が、家の様子を伝えに来られるようになり、その後「来やすいから」と定期的に午前中ボランティアで繕い物をしたり話をして過ごしたりされるようになった。 入所者の娘さんがピアノを弾きに来られ、ホームのみんなど歌を唄ったりされる。いつでもウェルカムの姿勢で受け入れている。以前行かれていた喫茶店の方が「うちのコーヒーも懐かしいやろ」とコーヒーを持ってこられるなどフランクな交流が続いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、利用者様同士の関係をしっかりと観察し、職員同士で情報を共有しあい、共同生活の中で役割りを持って頂くようにしている。利用者様同士が認めあえる、支えあえるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の特養へ移られた方については、行事等を通して関わりを持っている。退所されたあとも、家族様が職員に合いに来て下さることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの要望や希望などは、本人様の思いを尊重し出来る限り応じるように努めている。	入所時には本人、家族の面接をし、担当ケアマネや、かかりつけ医等から情報を得ている。家族に可能ならセンター方式の記録用紙の基本情報・暮らしの情報・心身の情報の用紙を渡し記入を依頼し、これらの情報を職員間で共有している。昨年たて続きに骨折事故があり、利用者の安心・安全に暮らせる関係づくりに努め、目下身心面の状態把握やケアに関心を寄せ見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に依頼し情報を把握するように努めている。また、ホームでの生活の観察など職員同士で情報共有を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の連携を深め、申し送りやその都度、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様にとって必要な部分のお手伝いを、計画書に記載するようにしている。	介護計画は利用者・家族の希望や日々のかかわりや観察から得た利用者の思いや意向を職員間で確認している。加えて家族が記載されたセンター方式の情報等を踏まえ、身体面の生活課題の他に、暮らしの中での楽しみや趣味等を把握し、計画作成担当者は介護計画に反映させている。モニタリングは半年に1回実施としているが変化があれば再アセスメントをし計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報や記録にわけて、利用者様の変化を見逃さないように努めている。毎月のホーム会議でも利用者様の情報を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が付き添えない受診やヘアカット等、その時に生まれるニーズに柔軟に対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や中学校の協力を得て、畑仕事や裁縫、習字や歌などインフォーマルな社会資源が活用できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療(内科・歯科)にて適切な医療体制が出来ている。受診やかかりつけ医は、本人様や家族様の考えのもと選んで頂いている。ホームとしては、本人様の状態が医師に伝わるように情報書を作成している。	入所後のかかりつけ医は本人や家族に希望を確認しているが結果的には内科の往診を受けている人が7割近くになっている。かかりつけ医の受診や専門医師の受診は家族が原則同行し、状況によってはスタッフも同行している。外来受診時はホームから情報書を持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職がいない為、職員同士で利用者様の情報共有に努め、主治医に伝えていく。必要に応じて同法人内のNSIに応援を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、出来るだけ毎日、職員がお見舞いに行くようにし、病院職員との情報交換や職員同士の情報交換を努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様の意向をうかがえるタイミングで自然を心掛けて聞いている。また、利用者様の健康状態を常に把握し家族様と主治医との連携を取りながら出来る限りの対応をしている。	ターミナルケアの指針は当ホームには設けられていない。状態が重度化すれば、主治医と連携を図りながら、現段階では同法人の特養か医療関係の施設利用となっている。	重度化や終末期に向けた当ホームの指針は設けられていないが、職員間で話し合いをされておかれることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は法人内で実施される普通救命講習に定期的に参加している。個人的に上級救命講習を終了している職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	自施設で避難訓練を行い、その際に地域の方々に周知し協力を仰ぐように心掛けている。緊急連絡網を作成している。	防火訓練は、年2回消防署立会いの元で日中、夜間想定による訓練が行われている。利用者は音に敏感な方以外はほぼ参加している。非常用のスロープの使用も職員が実際滑って確認している。近隣には訓練のお知らせを届け、少数ではあるが来られている。自然災害の訓練は行っていない。市からマニュアルをつくるように要請されている。第1次避難場所は徒歩20分程度かかり、ホーム前の法人本部への非難を予定している。	自然災害のマニュアルは独自案は設けられている。木津川も近く、早期に法人内の承認を得て作成されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の名前は名字で呼ぶように法人内で統一されている。排泄や入浴等は出来る限り、同姓介助で対応している。	理念、行動指針、接遇マニュアルの書かれた冊子を全員が所持し唱和し、日常的な意識の強化を図り内部研修を行っている。丁寧な言葉かけや介護を心がけ、入浴・排泄介助は原則、同性介護としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操や散歩時、法人のイベントなど、希望を自己決定できるように働きかけをしている。また、居室で食事を取りたいなど本人様の思いや自己決定を大切にしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人様のペースや希望にそうように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服が良いかを選んでいただいたり、化粧をされる方には化粧をさせていただいたりしている。特に予定がある日は、お伝えしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態に合わせて食事の形態を工夫している。毎食の食事準備や片付けを利用者様と一緒にしている。行事の時には、ランチョンマットを変えるなど、目での変化も楽しんで頂けるようにしている。	献立は法人の管理栄養士によるものを使っている。3食ホームで調理している。利用者も職員と一緒に準備をしたり後片付け食器洗いなどをされている。食材にホームの畑でとれたものが使われることもあり、近くでつくしを摘みつくしご飯を食べ、話も弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた栄養バランスの良い献立をもとに、食事提供をしている。また、食事量や、水分量を記録に残している。トロミが必要な方はトロミを付けたり、対応できる範囲での好き嫌いに答えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施している。本人様が実施された後に、状況に応じて仕上げ磨きをさせて頂く。また、希望がある場合には、訪問歯科診療により、口腔ケアに入って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握するようにし、必要に応じて、声かけをさせて頂き、排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援を行っている。基本的には、トイレでの排泄・布パンツを心掛けている。	排泄パターンを一人ひとり記録し、必要な利用者には声かけをしている。入所時はリハビリパンツであったが布パンツになった利用者もあり、家族によるこばれている。外出時心配な人や夜間は安心して寝られるようリハビリパンツを使っている利用者はある。昼間はトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をとって頂くようにし、運動への働きかけや、マッサージ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕食後に入りたいといわれる場合は、夕食後に入って頂くなど、可能な範囲で本人様の希望にそっように努力している。	入浴は最低週2回とし、希望のある利用者は入浴回数や時間帯も可能な限り希望を受け入れている。テレビを見ながらの足浴は好評である。入浴拒否のある方には、手を変え人を変え誘導している。入浴後は「良かった」と満足されている。入浴時間にも幅があり、利用者の夫々の入浴方法で入ってもらっている。	
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の照明の調整など、環境整備をしている。一人ひとりの生活習慣に合わせて、ホームの就寝時間を決めるなどはしていない。安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個別ファイルに挟んで、職員がすぐに見れるようにしている。職員一人ひとりが使用している薬を把握するように努めている。また、服薬の支援をし、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の水やり、草引き、料理、洗濯物干しや畳、ゴミ捨てや食材の受け取りなど、本人様の力を活かした役割り作りをしている。また、就寝前にビールを提供するなどその方にあった、楽しみごとの支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様それぞれのペースに合わせ、出来る限り外出の機会を作っている。法人内外の行事や散歩等を実施している。	普段は、事業所内の庭の散策、庭内の周りを回数を決めた歩行訓練、近くの飲食店、回転ずし（人気がある）などに1カ月1回の外出に出かけている。法人の特養のバイキングに招待を受け参加することもある。花見に近所や中学校等適当な場所を見つけて出かけ、法人の自動車を使用し、紅葉狩りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かり金を管理し必要に応じてお金を準備している。本人様で管理されている方もおられ、必要な物を購入する際に支払いをして頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやりとりをされたり、携帯電話を使い、家族様やご友人に電話をされたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや各居室は日当たりもよく、窓から見える庭には季節を感じさせる花や木を植えている。庭で育てた野菜を収穫したり、玄関やリビングには摘んできた花を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。利用者様の作品をリビング等に飾ったりもしている。	リビングは窓からの採光もよく、明るい。壁面には利用者と一緒に制作した季節に合わせた折り紙細工や、達筆な習字や水彩画が飾られ思わず見入ってしまう。書棚には、水彩画の同人の画集が並んでいる。籠には、利用者手作りのプリント柄のランチヨンマットがおかれている。リビングにはシンクもあり毎食事の調理に使われている。室内は適温で、音の刺激も特に感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやリビングから広がるポーチ、また、玄関下駄箱前の椅子や、玄関ポーチに置かれている椅子に座り、おしゃべりをされたり、日向ぼっこをされたりと、思い思いに過ごされている。リビングと居室以外にも逃げ場を作っている。		
54		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様のなじみの家具や思い出の写真等が飾られている。TVや趣味の品々を持参してもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室内は、シンプルな住まい方の居室もあれば、畳や布団を持ち込まれていたり、ジュータンを敷かれたり、化粧品、鏡台などが持ち込まれている居室、お孫さんの結婚式の写真を飾られている居室もある。夫々、住人の個性が感じさせられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけ、トイレには「トイレ」や「便所」と標識をつけるなど、わかりやすいように工夫するよう心掛けている。利用者様の動線には邪魔になるものが無いように心掛けている。		